

夏だいこんのキスジノミハムシに対する効果的な防除体系

野菜研究所

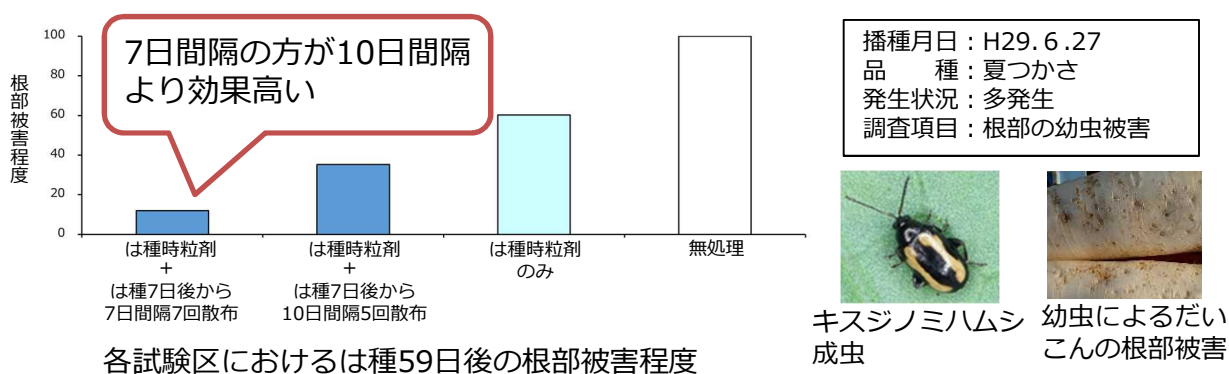
キスジノミハムシはだいこんの重要害虫です。6月中旬～7月上旬播種のだいこんに発生するキスジノミハムシに対し、根部被害を最も抑制する防除体系（播種時の粒剤＋定期的な茎葉散布）が明らかになったので紹介します。

播種時の粒剤

- ◆ 播種時にフォース粒剤 4 kg/10aを播溝土壌混和(種子と同程度の深さで浅く混和)。

粒剤処理後の茎葉散布

- ◆ 粒剤処理後は、播種7日後から7日間隔でキスジノミハムシに効果の高い薬剤を主体に茎葉散布します。
- ◆ 散布回数は、生育日数約60日では7回程度となります。



だいこんのキスジノミハムシ適用薬剤の中で効果の高い茎葉散布剤

- ◆ 本種幼虫による根部被害抑制効果が高い剤：
パダンSG水溶剤、スタークル／アルバリン顆粒水溶剤、ベネビアOD
- ◆ 上記より効果は劣るが根部被害抑制効果が認められる剤：
ハチハチ乳剤
- ◆ その他の薬剤は上記に比べ効果はやや劣り、どの薬剤も防除効果は同程度でした。

利用上の注意事項

- ◆ キスジノミハムシ成虫多発生条件下で被害を十分に抑えることができない場合があります。本虫の発生源となる圃場周辺のイヌガラシやスカシタゴボウなどのアブラナ科雑草の除草管理を行ったり、周辺のアブラナ科野菜で繁殖しないよう適宜防除して、圃場内の成虫密度を低くすることが大切です。
- ◆ 農薬を使用する場合は、最新の農薬登録情報をご確認下さい。

詳しくは平成30年度指導参考資料「夏だいこんのキスジノミハムシに対する効果的な防除体系」
<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/files/H30y9.pdf> を参考にして下さい

お問い合わせ 野菜研究所 病虫部 (Tel 0176-53-7171)